



帰国報告

アメリカの青少年と交流

町では、次代を担う中学生を対象に、外国の文化、歴史、風土等に直接してもらうため、日本外交協会が企画主催する「ジュニア大使友情使節団」に中学生を派遣しています。今年は、7月23日から8月3日までの日程で、米国アラバマ州の一員として、6人が参加しました。7月23日には出発式が、8月4日には帰国報告が、役場で行われました。次号から3回にわたり、参加者の報告書を紹介いたします。

表彰おめでとございます

8月7日(月)
上山田第1・2地区の民生委員・児童委員を昭和47年から、28年10か月間務められた、石沢清子さん(写真左)に、厚生大臣から感謝状が贈られました。長い間、ありがとうございました。なお、後任の同委員には、小林肇さん(写真右、上山田第2)が委嘱されました。



町立図書館

問い合わせ ☎377-5300

開館時間
平日 午前9時～午後6時
土・日 午前9時～午後5時
休館日
月曜日、毎月第3木曜日、国民の祝日、年末年始、曝書期間(9月5日～10日)
〈絵本の読み聞かせ〉
毎週水曜日午前10時30分～

夏休みの図書館

夏休みに入り、普段よりも利用者が増えました。いつもなら空気ができていく机が、小・中学生の勉強で満席状態。そんな状態を見て、諦めて帰る人もいれば、中には窓際の本棚の上を使って、勉強している人の姿もありました。

その他、涼みついでに本を読む人、冷たい水を飲みに来た子、グループで宿題を勉強しに来る人等、利用の仕方はさまざまです。そして、毎朝、早くから勉強道具を抱えて来る多勢の小中学生を見ると、「すごいなあ」と思っています。

私が小学生の頃は、図書館で勉強することなど全く頭にはなく、とにかく毎日遊び三昧。今日は山か、川か、と考えているうちに、あつという間に夏休みが終わってしまふことの繰り返しでした。

二十世紀最後の夏休み。有意義な休みであったことと思えます。

図書館に大きな活字の本が入りました。小さい文字はどうも苦手だという方、どうぞご利用ください。(司書)

図書館 だより



今月の新刊(一部)

命 柳 美里 著 小学館
生と死を見つめて。こんなに感動的なスキヤンダルがあったのだろうか。妻ある男性との恋愛、妊娠、未婚出産、そして病闘病。十年分を一気に生きた一年間の真しく、壮絶な私記。

晴天屋 岡崎 祥久 著 講談社
漂泊の魂が声を放つ。「ここではないどこかへ!」30過ぎ、隣の餅つき。無為徒食のクズ男といかれた女たちのさすらい。それこそが運命なのだ…。独自のユーモアと繊細なセンスで時代の空気を映す短編集。

マルコ・ポーロと私 楠見 朋彦 著 集英社
1298年、ジェノヴァの牢獄。マルコの口から奔出する「東方の記憶」。驚異にして奇威の話を「私」は書き写す。語られる物語は、やがて「私」の筆の中で、もう一つの物語へと胎動しはじめ…。

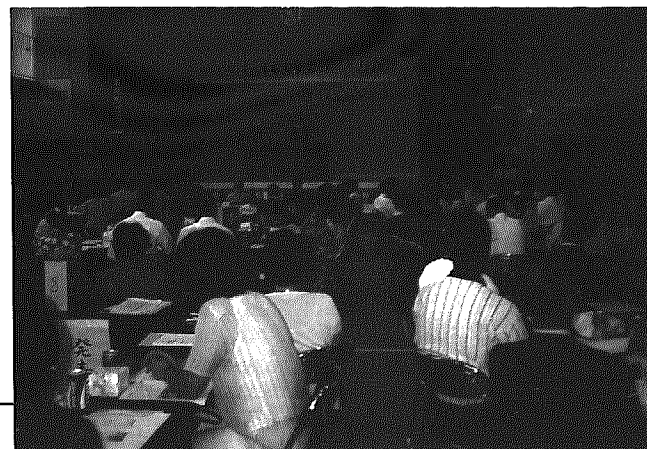
死して残せよ虎の皮 鈴木 輝一郎 著 徳間書店
死して残せよ虎の皮。勝つことと生きることはまったく別のもの。人は死んでも生きられる。残された者の心中に。家族を守るがゆえに義理の兄・繪田信長に刃を向けた長政。江北の麒麟・浅井長政の清冽たる生涯を描く。

まちの二コース

町の様々な出来事をお伝えします

毎年7月は、“社会を明るくする運動”の強調月間です。7月18日(火)、第50回“社会を明るくする運動”黒埼町公開ケース研究会が農村環境改善センターで行われました。当日は、郡内の保護司やPTAなど地域の関係者100人が集まり、事例研究を行いました。参加者は、最近の子どもたちをめぐる問題である「夏休みと飲酒」「テレクラ遊び?」「同級生との恐喝」の3つのテーマをグループに分かれ、子育て中のお母さんやお父さん、地域の大人が、子どもたちのために何ができ、何をなすべきかを考えました。

子どもたちのために何をなすべきか



英語教育の充実に貢献

7月21日(金)
町のALT(外国語指導助手)を平成9年7月28日から12年7月27日まで3年間務められ、アメリカへ帰国される、サトウ・グレース・ユーコさんへ、中学校における英語教育の充実に国際交流の進展に貢献されたとして、河内町長から感謝状が贈られました。グレースさんは、黒埼での思い出を町長と語り合ったり、「2002年のワールドカップには、通訳として日本に来たい。」と今後の抱負を語っていました。長い間、ありがとうございました。



まめに運転 まめに確認

7月31日(月)
8月1日から10日までの夏の交通事故防止運動に合わせ、善久地内の建設省国道工事事務所黒埼出張所で街頭指導が行われました。当日は、善久保育所の園児や交通安全指導員、同推進員ら約45名が、国道8号を行き来するドライバーに、「豆に運転」「豆に確認」と書かれた、黒埼茶豆を配りながら、「交通事故に気をつけてね」と声をかけていました。

